

2024年6月吉日

## 特別展「眼福—大名家旧蔵、静嘉堂茶道具の粹」 2024年9月10日(火)～11月4日(月・振休)

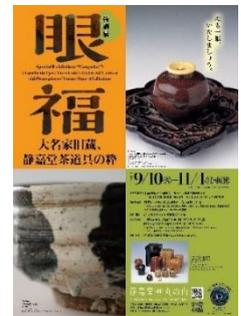
静嘉堂所蔵の茶道具は、三菱第2代社長・岩崎彌之助(1851～1908)とその嗣子で第4代社長の岩崎小彌太(1879～1945)の父子二代によって、明治17年(1884)頃から昭和20年までに蒐集されたものです。今日、約1,400件にのぼる茶道具コレクションは、私立の一美術館としては群を抜いた、質量ともにレベルの高い蒐集品といえ、いうまでもなく、静嘉堂所蔵品の主要な柱となっています。

彌之助の茶道具蒐集は刀剣蒐集に次いで早い時期から行われ、明治17年(1884)には付藻・松本茄子<sup>つくも</sup>を、明治21年(1888)には、仙台藩主伊達家所蔵の茶道具を一括購入するなど、好機をのがさない購入によってその骨子が形成されてゆきました。大正期以降は、英国留学から帰国し、広い視野で東洋古美術品の拡充を担った嗣子小彌太が茶道具の中に大切に伝えられた中国陶磁の名品をとらえ、コレクションに加えてゆきました。小彌太自身も晩年、茶の湯に親しむようになり、表千家の12代惺齋宗匠と久田宗也無適齋宗匠に師事し、その理解を深めました。

静嘉堂が丸の内のギャラリーに移転して初めて、静嘉堂としても8年ぶりの茶道具展となる本展では、将軍家や大名家旧蔵の由緒ある墨跡や花入、茶入や名碗をはじめ、著名な茶人たちの眼にかなった、姿・形の美しいものから、渋みや風格をたたえた作品まで、一堂に会します。茶道具の由緒歴史を尋ね、「銘」の響きを味わい、作品それぞれの見所を間近でご鑑賞いただきながら、ご来館の皆様、「眼福」のひとつときをお過ごしいただければ幸いです。

### 【開催概要】

- 会 期：2024年9月10日(火)～11月4日(月・振休)  
※会期中一部展示替えあり 前期9月10日(火)～10月6日(日)/後期10月8日(火)～11月4日(月・振休)
- 会 場：静嘉堂@丸の内(明治生命館1階)  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治生命館1階
- 休 館 日：毎週月曜日(ただし9月16日・9月23日・10月14日・11月4日は開館し翌火曜休館予定)
- 開館時間：午前10時～午後5時  
※土曜日は午後8時まで/第4水曜日は午後8時まで※入館は閉館の30分前まで
- 入 館 料：一般1,500円※お着物の方は一般料金の200円引。他の割引との併用は不可  
大高生1,000円 中学生以下無料
- 問い合わせ：TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル)
- ホームページ：<https://www.seikado.or.jp>
- X: @seikadomuseum / Instagram: seikado\_bunko\_artmuseum
- 主 催：静嘉堂文庫美術館(公益財団法人静嘉堂)



### 本展 3つの見所 !!

**見所 1 至宝の名碗、勢ぞろい！—唐物・高麗・樂・和物まで**

**見所 2 著名な茶入、大集合！信長・秀吉・家康が手にした「付藻」、「松本」も！**

**見所 3 狩野派絵師が継承、「猿曳棚」4点を公開！**

## 【本展の構成】

### Gallery 1: “眼福”を<sup>がんぶく</sup>一<sup>いわさきやのすけ</sup>岩崎彌之助・<sup>こやた</sup>小彌太父子蒐集の名碗から

最初の展示室では、静嘉堂所蔵の名碗を、中国製の唐物—ここでは天目茶碗、高麗茶碗、樂茶碗を、ホワイエでは、和物(国焼)茶碗の優品をご紹介します。

我が国には、中国建窯で焼かれた曜変、油滴の名品をはじめ、華南地域で焼成されたすぐれた黒釉茶碗が齎されています。油滴斑が格別に大きく姿も見事な油滴天目は、水戸徳川家伝来の大振りの堆朱天目台も負けない迫力で、中国漆芸の名品として引けを取らず、風格も釣り合った取り合わせです。大坂藤田家で生まれ、昭和4年の売り立てで、岩崎家に購入されました。



**天目**：今日では黒い茶碗の総称。また広い口に窄まった高台を持つ茶碗のことを天目形という。我が国から名刹のあつまる浙江省“天目山”等に留学した僧侶たちが、教義で学んだ喫茶を、黒釉茶碗などの道具とともに持ち帰ったことから、この種の茶碗は「天目」と呼ばれるようになった、ともいわれます。

#### 広報画像1-1・1-2

1-1:重要文化財《油滴天目》

1-2:重要文化財《油滴天目》、付属《堆朱花卉文台》

油滴天目:南宋時代(12~13世紀)

天目台:明時代(15世紀初期)

伝来:…藤田家…岩崎小彌太—静嘉堂

「唐物至上主義」の時代から、桃山時代16世紀終りに近づくと、千利休によって大成された“侘び茶”の精神に沿った道具が茶席で人気を博します。「天目」のなかでは侘びた風情をもつとされ、侘茶において地位をあげる「灰被天目」ですが、本展では毛利家伝来、小堀遠州から佐倉藩主堀田家へ伝わった「埋火」の銘をもつ名碗を出品します。



#### 広報画像2

重要文化財《井戸茶碗 越後》

朝鮮時代(16世紀)

伝来:…越後殿…薩摩屋素朴…川井某

…京都六角三井家…岩崎家—静嘉堂



#### 広報画像3

《堅手茶碗 銘 秋かぜ》

朝鮮時代16~17世紀

伝来:…岩崎家—静嘉堂



#### 広報画像4

《赤樂茶碗 銘 ソノハラ》

江戸時代(17世紀)

伝来:…樂了入…岩崎家—静嘉堂

朝鮮半島でつくられた高麗茶碗もこのころから人気を博します。本展では、著名な大井戸の、重文《井戸茶碗 銘 越後》、また季節にあわせ、「秋かぜ」の銘をもつ白磁の堅手茶碗も出品します。涼やかな明るい水色の釉調から、風を感じていただけるのでしょうか。形も楕円形で見所多い名碗です。日本で利休が創始したといわれる京都の樂焼茶碗からも、黒樂平茶碗《紙屋黒 長次郎(樂家初代)》、赤樂の名碗《赤樂茶碗 銘 ソノハラ 道入(樂家三代)》を、それぞれ出品します。轆轤を用いない“手づくね”による人肌を感じさせる凹凸、たっぷり深く温かみのある造形、色合いの茶碗などは、手に取った感じも想像できそうです。近づいて、“眼福”を感じていただければ幸いです。

◆ 国宝の《曜変天目(稲葉天目)》は、稲葉家との関わりで、Gallery4にて《唐物瓢箪茶入 稲葉瓢箪》と共にご紹介します。

## Gallery 2: 憧れの茶入ちやいれ – “大名物”、おおもいぶつ“中興名物”ちゆうこうめいぶつの賞玩

濃茶をいれて点前てまへに用いる陶製の小壺、茶入は、茶席の“格”を決め、道具の取り合わせの要ともなる、大変重要な道具です。中国南方では、香料等を入れる容器として海外に運ばれたと推察されていますが、日本では抹茶をいれる容器となりました。

当初はそのような唐物の小壺が抹茶入れとして珍重され用いられていましたが、茶入の需要が増すと、その形を模倣したものが、室町時代以降瀬戸でも製作されるようになります。茶入としての約束事(寸法や二重掛けの釉による景色)が守られたものであるか、またその茶入自体の所持者や茶会の使用といった由緒伝来が、茶席では重要な意味をもつようになります。

岩崎彌之助が茶道具の中で最初に購入した作品は、利休時代から天下に知られた“大名物”の唐物茄子茶入、付藻茄子つくも(「九十九髪」「作物」)と、松本茄子(別称:紹鷗茄子)の2点とされています。この二つの茶入はともに信長-秀吉-家康と、戦国時代の三英傑が手にした伝来をもつ著名な茶入です。松本茄子は、武野紹鷗が所持した“三つの名物唐物茄子茶入”のうちの一つでした。明治17年(1884)、これらの茶入を入手できる話が持ち込まれたとき、当時若かった彌之助にはとても高価であったため、会社から年末の給与を前借りして購入したとされます。



広報画像5

大名物《唐物茄子茶入 付藻茄子》  
南宋～元時代(13～14世紀)

付藻茄子の伝来:

足利將軍家(義満…義政)…山名豊重-伊佐宗雲-朝倉教景-京小袖屋-越前小袖屋-京袋屋-松永久秀-織田信長(本能寺罹災)…豊臣秀吉-有馬則頼-豊臣秀頼(大坂城で罹災、藤重修



広報画像6

大名物《唐物茄子茶入 付藻茄子》、  
大名物《唐物茄子茶入 松本茄子(紹鷗茄子)》

ともに南宋～元時代(13～14世紀)

紹鷗茄子の伝来:…山名氏-松本珠報-天王寺屋宗伯(引拙)-武野紹鷗-(武野宗瓦)-今井宗久-織田信長-今井宗久-豊臣秀吉-豊臣秀頼(大坂城で罹災、藤重修復)-徳川家康-藤重藤巖-藤重家…今村長賀-岩崎彌之助(彌太郎-久彌)-小彌太-静嘉堂

本展では、この2つの茄子茶入を含む、静嘉堂所蔵の“大名物”茶入7点、すべてを展示。さらには、江戸時代後期、出雲藩主で大茶人であった松平不昧(治郷)が小堀遠州時代の茶入として評価し、“中興名物”と名付けた茶入(日本製の茶入)も、静嘉堂に所蔵する5点、全てを展示します。



広報画像7

中興名物《瀬戸芋子茶入(古瀬戸) 銘「雨宿」》  
室町～桃山時代(16世紀)

伝来:…小堀遠州…木屋庄八…船橋長左衛門…京三井家…戸田家…岩崎彌之助-小彌太-静嘉堂

大切に収納される茶入は、硬い木材を用いた筒形の容器ひきや「挽家」に収納されることがあります。また所持者が好んで、あるいは持ち主がかわるたびに、象牙の蓋しぶくや仕覆しぶくを新調することがあります。そして箱や風呂敷が増えるなど、“次第しだい”と呼ばれる付属品が、さらに揃えられてゆくようです。より珍しく、美しい色彩や意匠の染織品、工芸品が茶入に加えられていった結果、茶道具をしまう最終的な大箱の中は、当時の富裕層が入手してきた異国情緒満載の文物が集積されます。幾つもの箱がすべて総箱にぴったり入りますが、それはもとの小さな茶入からすると、数倍(十数倍?)の大きさになっていることもしばしばです。

また、名物裂(明～清時代の織物)で作られた仕覆しぶく、象牙の替え蓋、古渡り更紗(インドや東南アジア産の風呂敷)なども展示室でできるだけ並べる予定ですので、どうぞこの機会にたっぷりご鑑賞下さい。

將軍家の所持、大名家に伝えられた道具が多く揃う本展では、これも一つの見所ともなるでしょう!

## Gallery 3: 静嘉堂茶道具の粹－大名家の名宝、“眼福”の逸品

静嘉堂の茶道具の根幹をなすものは、仙台藩主伊達家旧蔵品に代表される、江戸時代の大家ゆかりの作品です。伊達家では、徳川将軍を江戸の藩邸でもてなす「御成」のために収集された道具類も多かったとされ、主従関係の確かな紐帯を示す証として、将軍家との間を往き来した名品も少なくありません。伊達家では、初代藩主政宗、四代綱村、五代吉村がことに蒐集に熱心であったとされ、江戸のみならず、京都まで茶道頭の清水道閑らを派遣することも度々であったといえます。《唐物茄子茶入 利休物相》の次第ひとつとつても、芸術を愛し、茶の湯にも熱心であった大名コレクションの様子がうかがえます。

静嘉堂の茶道具には、このほか加賀藩主前田家、淀藩主稲葉家、丸亀藩主京極家、出雲藩主松平家、福知山藩主朽木家、姫路藩主酒井家、佐倉藩主堀田家等、大名家に伝来した道具類が多く含まれています。ここでは、墨跡、花入、香合、水指等幅広く、また豪商や茶人所持の名品もあわせ展示します。



広報画像 8-1(左)・8-2(右)

重要美術品 大名物《唐物茄子茶入 利休物相 (木葉猿茄子)》、  
(付属)《堆黒螭龍文稜花盆》

利休物相：南宋～元時代(13～14世紀)、  
盆：南宋時代(12～13世紀)

伝来：千利休…徳川家光—伊達政宗(伊達家代々…白山彦五郎(炭屋)…岩崎彌之助—小彌太—静嘉堂



広報画像9

重要文化財「虚堂智愚墨跡 景西至節偈」  
南宋時代 景定 2年(1261)

伝来：…堺の宗顕居士…仙台藩主伊達家…白山彦五郎(炭屋)—岩崎彌之助—小彌太—静嘉堂



広報画像 10

《青磁鯨耳花入(砧花入)》  
南宋時代(13世紀)

伝来：…千利休…仙台藩主伊達家…白山彦五郎(炭屋)—岩崎彌之助—小彌太—静嘉堂

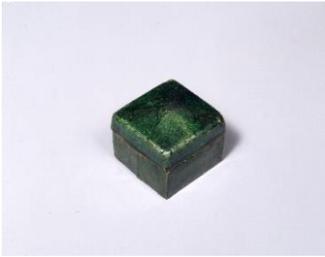
★仙台藩伝来。ヒビのあるこの花入を「砧」と命銘したのは、これを所持した千利休であったと伝えられます。



広報画像11

重要文化財《白磁蓮花文輪花水指》  
南宋時代(13世紀)

伝来：…加賀藩主前田家—中宮家…岩崎彌之助—小彌太—静嘉堂



広報画像 12

《交趾四方香合》  
明時代(17世紀)

伝来: 姫路藩主酒井家…岩崎家-静嘉堂



広報画像 13

《交趾狸香合》  
明時代(16世紀末~17世紀前半)

伝来: …岩崎家-静嘉堂



広報画像 14

重要文化財 野々村仁清  
《色絵法螺貝香炉》  
江戸時代(17世紀)

伝来: 岩崎家-静嘉堂

「大名物の棚!？」<sup>じょうおう おりべ</sup> 紹鷗、<sup>ちやどろ</sup> 織部、仙台藩茶頭・清水家代々の宝物…



広報画像 15

「猿曳棚(本歌)」地袋板絵: 伝 狩野元信  
室町時代(16世紀)

伝来: 武野紹鷗—古田織部—清水道閑(清水家代々)  
…梁瀬昌幸…岩崎彌之助—小彌太—静嘉堂



「猿曳棚」とは



地袋のあるこの棚の形は、武野紹鷗(1502~55)が好んだとされ、“紹鷗棚”と呼ばれます。引戸に猿曳の絵が描かれることから「猿曳棚」の名があるものです。伊達政宗に茶道役として仕えることになった清水道閑(どうかん)は、京都から仙台へ下るとき、古田織部からこの猿曳棚を餞別に贈られました。

伊達家茶道頭・清水家(代々)では、この本歌を大切に伝えるとともに、猿曳の絵を狩野派絵師に描かせた“写し”を複数製作しています。現在、静嘉堂ではこの「本歌」作品と、写し3点(①板絵が江戸時代 狩野派(筆者不詳)のもの、②明治18年(1885)狩野永恵筆のもの、③明治時代 橋本雅邦の筆と伝えるもの)の合計4件を所蔵しています。本展では、これらの4つ全てが全期間展示されますので、茶道具においては珍しい“名物棚”の伝承のさまを、どうぞご覧ください!

本展で初公開となる最後の1点(現在修理中)は、狩野派に連なる日本画家・橋本雅邦筆の可能性が有るものです! 引戸絵の裏側に「元信圖 雅邦臨」と書され、その箱書に「猿曳棚 雅邦筆」「如水珍蔵」と、雅邦の弟子・桃澤如水の書付が認められる作品です。この作品は果たして…!? 展示室でどうぞ熟覧ください!

参考画像①

江戸時代 狩野派・筆者不詳



参考画像②

明治18年 狩野永恵



参考画像③

明治時代 伝 橋本雅邦



## Gallery 4:名宝を伝えゆく“茶の湯”－淀藩主 稲葉家から岩崎家へ

本展最後の部屋、Gallery4では、岩崎彌之助、小彌太父子が蒐集した茶道具の名品に立ち返ります。静嘉堂所蔵の茶道具のなかでは、淀藩主稲葉家より小彌太の代で購入された、中国陶磁、茶道具の至宝、国宝《曜変天目(稲葉天目)》がもっともよく知られているものですが、明治時代に、父 彌之助は稲葉家伝来の唐物茶入の宝物で稲葉家の名を冠した、《唐物瓢箪茶入 稲葉瓢箪》を明治 30 年に求めています。双方とも格が高く、現在の静嘉堂茶道具コレクションにおいて、いずれも重きを置かれる大事な作品です。



広報画像 16-1(左)・16-2(右)

国宝  
《曜変天目(稲葉天目)》  
南宋時代(12～13 世紀)

伝来:…徳川将軍家－徳川家光－春日局－稲葉美濃守正則(…稲葉家代々)－岩崎彌之助－岩崎小彌太－静嘉堂



広報画像 17

大名物《唐物瓢箪茶入 稲葉瓢箪》次第とともに  
稲葉瓢箪:南宋～元時代(13～14世紀)

伝来:…稲葉美濃守正則(…淀藩主稲葉家)－岩崎彌之助－小彌太－静嘉堂

★『大正名器鑑』の編著者・高橋草庵が、世にある唐物茶入の瓢箪の中でこれを「上杉瓢箪」に次ぐ「天下第二」と評しました。

岩崎彌之助の時代、明治 30 年に購入されたのが「唐物茶入稲葉瓢箪」です。この瓢箪茶入は、『大正名器鑑』の編著者・高橋草庵(義雄)にも高く評価されています。上半分に膨らみをもたず、独特の瓢箪の形姿、釉中に丸い抜け文様が織りなす景色もゆたかで、選ばれし名品とわかります。次第には、人魚や羽人などを描くユニークな舶来の「挽家」、名物裂の仕覆、牙蓋まで、見事に揃えられています。

一方、世界の至宝ともいべき黒釉の喫茶茶碗、《曜変天目(稲葉天目)》は、大正 7 年に稲葉家を離れ、のち親族の小野家所蔵となり、その後に当主の譲り状も添う形で、昭和 9 年(1934)に岩崎家に入ります。岩崎小彌太は「天下の名器、私に用いるべからず」と、大事に扱い、生涯この茶碗に口をつけることが無かったと伝えられています。



広報画像 18

重要美術品  
《御所丸茶碗 黒刷毛》  
朝鮮時代(17 世紀)  
伝来:…岩崎家－静嘉堂

★この茶碗を好んだ小彌太は、自作の俳句を添えた色紙に、本碗を水彩画で写生しています。



#### 広報画像 19

#### 《青漆小旅簞笥》

即中斎(表千家 13 代)在判 宗哲(11代)

同箱書付

昭和20年(1945)

伝来:…岩崎小彌太—静嘉堂

さらに、小彌太の茶の湯の師であった表千家の久田家無適斎宗匠との交流の様子を、初公開の《青漆小旅簞笥》によってご紹介します。小彌太最晩年の昭和 20 年、終戦の年の秋に、東京麻布鳥居坂の本邸罹災後の不自由のなか、京都の無適斎宗匠より、日々に使える小型の「旅簞笥」をと贈られたのが、この華やかな青漆をつかった作品です。終戦後の大変な時期にあっても、小彌太のひとときの休息に、茶が身近にあった様子がうかがわれます。江戸時代を通じて、淀藩主稲葉家が代々守り伝えてきた価値ある名宝を、岩崎家父子は次の継承者として責任をもって引き継ぎ、それが今日の静嘉堂に伝えられています。茶の湯における、禅の心、先代の茶人たちが引き継いできた精神とものの歴史は、岩崎家にあっても稲葉瓢箪、曜変天目(稲葉天目)をはじめ、大名家旧蔵の名品、茶人ゆかりの道具を大切に伝えゆく力となったことでしょう。

## <関連イベント>

### \*講演会

[講師] 竹内順一氏 (東京芸術大学名誉教授)

“唐物”茶道具の世界—大名物茶入から天目まで

[日時] 2024 年 10 月 5 日(土)14:00-15:30

[会場] 明治安田ホール丸の内 (明治安田生命ビル低層棟 4F・旧 MY PLAZA ホール)

※参加方法等、詳細は当館ホームページでお知らせいたします。

### \*学芸員によるスライドトーク

[日時] 9 月 21 日(土)、10 月 12 日(土)、10 月 26 日(土) いずれも 11:00～、14:30～

[会場] 明治安田ギャラリー(明治安田生命ビル低層棟 1F)

[定員] 30 名

※参加方法等、詳細は当館ホームページでお知らせいたします。

#### 【報道に関するお問い合わせは】

◆静嘉堂文庫美術館 広報事務局(共同 PR 内 担当:三井)

※在宅勤務も増えているため、メールでいただけると助かります。

E-mail:seikado-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F

◆静嘉堂文庫美術館 E-mail:press@seikado.or.jp(広報担当:大森)

特別展「眼福 大名家旧蔵、静嘉堂茶道具の粋」2024年9月10日(火)~11月4日(月・振休)  
静嘉堂文庫美術館(静嘉堂@丸の内)  
【広報作品画像データ申請書】

展覧会の広報を目的として本申請書にてご申請いただいた記事・番組に限り、本展の広報用画像の使用が可能です。本展の会期中であっても別の記事・番組への転用はできませんので、その際には改めてご申請をお願いいたします。ご使用可能期間は本展会期終了までとなります。また、掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、本展終了後、データは速やかに破棄・削除してください。必要事項をご記入の上、E-mailでお申し込みください。E-mailでの送付が難しい場合、FAXでお申し込みください(FAX:0120-653-545)

<画像使用全般に関する注意>

- 展覧会名、会期、会場などの開催概要のほか、**指定表記、作家名、作品名、制作年**を必ず掲載してください。**所蔵元はまとめて1か所ご記載ください。**
- 作品画像は全図で使用してください。原則として文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません(画像背景を削除するなど可能です)。雑誌の表紙などへの使用をご希望の場合は広報事務局までお問い合わせください。
- 概要など確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを本展広報事務局へ1部ご送付願います。

希望	NO.	作者名・指定表記・作品名/画像資料名	制作年/制作年代	所蔵元/画像提供元
	1-1	重要文化財「油滴天目」	南宋時代(12~13世紀)	静嘉堂蔵
	1-2	重要文化財「油滴天目」、(付属)「堆朱花卉文台」	南宋時代(12~13世紀)、天目台:明時代(15世紀初期)	静嘉堂蔵
	2	重要文化財「井戸茶碗 越後」	朝鮮時代(16世紀)	静嘉堂蔵
	3	「堅手茶碗 銘 秋かぜ」	朝鮮時代(16~17世紀)	静嘉堂蔵
	4	「赤楽茶碗 銘 ソノハラ」道入(樂家三代)	江戸時代(17世紀)	静嘉堂蔵
	5	大名物「唐物茄子茶入 付藻茄子」	南宋~元時代(13~14世紀)	静嘉堂蔵
	6	大名物「唐物茄子茶入 付藻茄子」、大名物「唐物茄子茶入 松本茄子(紹鷗茄子)」	南宋~元時代(13~14世紀)	静嘉堂蔵
	7	中興名物「瀬戸芋子茶入(古瀬戸) 銘「雨宿」	室町~桃山時代(16世紀)	静嘉堂蔵
	8-1	重要美術品 大名物「唐物茄子茶入 利休物相」次第とともに	利休物相:南宋~元時代(13~14世紀)	静嘉堂蔵
	8-2	重要美術品 大名物「唐物茄子茶入 利休物相」、(付属)「堆黒蜻龍文棧花盆」	利休物相:南宋~元時代(13~14世紀)、盆:南宋時代(12~13世紀)	静嘉堂蔵
	9	重要文化財「虚堂智愚墨跡 景西至節偈」	南宋時代 景定2年(1261)	静嘉堂蔵
	10	「青磁鯨耳花入(砧花入)」	南宋時代(13世紀)	静嘉堂蔵
	11	重要文化財「白磁蓮花文輪花水指」	北宋~金時代(11~12世紀)	静嘉堂蔵
	12	「交趾四方香合」	明時代(17世紀)	静嘉堂蔵
	13	「交趾狸香合」	明時代(16世紀末~17世紀前半)	静嘉堂蔵
	14	重要文化財「色絵法螺貝香炉」野々村仁清	江戸時代(17世紀)	静嘉堂蔵
	15	「猿曳棚(本歌)」地袋板絵:伝 狩野元信	室町時代(16世紀)	静嘉堂蔵
	16-1	国宝「曜変天目(稲葉天目)」	南宋時代(12~13世紀)	静嘉堂蔵
	16-2	国宝「曜変天目(稲葉天目)」	南宋時代(12~13世紀)	静嘉堂蔵
	17	大名物「唐物瓢箪茶入 稲葉瓢箪」次第とともに	稲葉瓢箪:南宋~元時代(13~14世紀)	静嘉堂蔵
	18	重要美術品「御所丸茶碗 黒刷毛」	朝鮮時代(17世紀)	静嘉堂蔵
	19	「青漆小旅簞筒」即中斎(表千家13代)在判 宗哲(11代)同箱書付	昭和20年(1945)	静嘉堂蔵
	20	ポスタービジュアル		

ご住所	〒		
社名/媒体名	社名	媒体名	
ご所属/ご担当者名	ご所属	ご担当者名	
TEL/FAX	TEL	FAX	
E-mail			
掲載号/発売予定日	月号( 月 日号) / 月 日発売予定 (発行部数 部) <input type="checkbox"/> WEBへの転載あり		
チケットプレゼント	<input type="checkbox"/> 読者プレゼントを希望する ※プレゼント内容・数量に関しては別途ご相談となります。応募、当選者選定、発送は貴社でお願いできればと思います。編集部で対応できない場合は広報事務局までお問い合わせください。		
チケット送付先	※上記ご住所と異なる場合は記載をお願いします。		